

【対談】「考える読書」「紙の本と電子書籍の共存」

大切に譲れないものとは何か

酒井 邦嘉さん(東京大学大学院総合文化研究科教授)・宮下 与兵衛さん(長野県赤穂高校教諭)

思考言語としての言葉を鍛える

宮下 与兵衛教諭 私は定時制高校で教えていますが、まったく作文の書けない生徒に読書を勧めたら、その生徒は毎日日本を読むようになり、大学入試に小論文で合格しました。読書の力はすごいと感じています。

酒井 邦嘉教授 本をたくさん読むという行為は、いろいろな状況にあわせて、世界を自分の頭の中に再構築できることになるんですね。そういう意味で脳というのは、非常に限られた情報でも、それまでの読書経験が豊富であればあるほど補うことができるわけです。

もう少し科学的に整理すると、我々は言葉というものを

のあまりにも空気のように使えていると思つていますが、言葉を話す力と国語の力は違つてですね。言語的な日本語としての使い方というレベルと、相手に意志を伝達するという、想像力で補う部分との間にはかなりの開きがあります。そこを埋めないと、国語という科目でみたときに大きな力の差が出てくるんだと思います。

宮下 定時制では毎年、全校「生活体験発表」というものを行っています。一度作文を書いて文章にしてから発表するんですけど、これがなかなか難しいんですよ。今の話で、国語の力を鍛えるには、国語の力を鍛えるというよりも、想像力というのを鍛える方が、文章表現に對する想像力というものは、行間を読む力なんですよ。字面だけでなく、その間を補って文章として理解できる力です。それは、入力の情報に対して想像して補い、自分のものにしていく過程だと思つています。また、作文をするときにはやはり表現する力、どうやって自分の考えを圧縮して外に出すかが問われます。そこに文の構成や起承転結、語彙のレベルなど、適切なものが選べないと、非常にミスマッチが



酒井 邦嘉 さん
(東京大学大学院総合文化研究科教授)

つかかりになり、他のことにもやる気がでるんじゃないかと思つています。

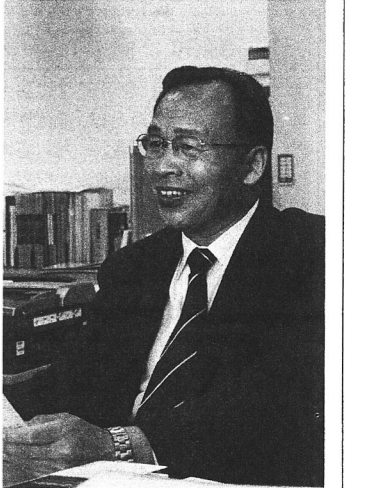
宮下 それぞれ、板書やノートのことも具体的に書いておくといいですね。生徒がノートをとることによって考える能力が育つということ、電子化が進むこれからの学校教育でも大切なことだと思つています。

酒井 人間の思考のプロセスというのは時間をかけてしかないので、ノートをとると手間はあつてもいいんですけど、しかも直すという作業が意識的にできるので、それが自分にとっての勉強になる。だけど、完璧に誤植のないものだけ見せられただけで、その必要がなくなるので、当然深い吟味もなくなってしまいます。そういう意識が、もしもしたらその中に誤りがあるのかもしれないというこすらわ

おきるわけです。ですから、生徒一人ひとりの考える力、想像力だけではなくて、表現する力、何が足りないのか、教師が見極めることがすごく大切なんです。

宮下 国語教育の課題として、コミュニケーション力をつけることが言われていますが、今先生が言われていたような観点でやっていたら、難しいですね。

酒井 コミュニケーション力というのは基本的には目に見える力です。それは表現力と確かに関わつてはいるんですけど、大切なのは目に見えない力なんです。思考言語としての言葉がはるかに大きくその人の頭の中に広がっているということが背景にあると考えると、コミュニケーション力という問題は解決しないですよ。だから、水面下にあるものが、どれだけ豊かで深く広いのかということが、その人の言語表現、言語力、国語力すべてを支える基盤にある



宮下 与兵衛 さん
(長野県赤穂高校教諭)

ものどという見方のほうが正しいと思つています。というのは、我々は相手がいなくても思考するときには常に言語を使うわけで、それを相手に伝える力は、本来備わった能力の氷山の一角に過ぎないわけですから。

宮下 例えば、ヘレン・ケラーの話に、サリバン先生がウォーター(水)という言葉で水を教える有名な場面がありますが、あの話でいうと、言葉の獲得は物の認識ということではないんですか?

酒井 そのいくつかの比喩は、本当に表層の、目に見える部分しかとらえていないと思つてですね。つまりその体験で、手に触れる水がウォーターという単語と結びつくんだということ、分かつた気になるんですけど、そういう気になるんです。関係というのは、人間だけがもっている能力ではなくて、例えば犬に「お手」というとお手の動作をしますね。それは我々が本能的に知っているということ、単にある事象を言葉というものに置き換えることが、ヘレン・ケラーが奇跡である理由は三つあります。一つは三重苦になる前に言語獲得がすでに行われていたであろうということ、二つ目は、並外れた知性と忍耐

であつたということ、そして三つ目は一人の生徒に対して、その生徒の実力を引き出せる、もっとも最適なサリバン先生が常に近くにいたという事実ですね。それが重なってヘレン・ケラーの能力を引き出すことに成功した。だからヘレン・ケラーの例は非常に特殊なので、彼女に出来るだけ教育してしまつたら、とんでもないことになると思つています。

力と想像力を兼ね備えた人

在だということを忘れると、電子化によつて大事なものを失つてしまつたということを感じました。

酒井 電子化を機械化と置き換えてもいいかも知れませんね。画一化、効率化し、経済化するもの、なかには機械化という流れがあり、そこに電子化がのつてくるわけですね。それが実は思考まで影響を与えてくるまで浸食してきて、知らない間に教育さえ機械化されていくというやうなもの、ある種の脅威として感じられるかどうかが、機械をデザインした人が人間の本来を知らずにデザインしている

大切なのは人の存在

宮下 私の友人の英語教師が、電子書籍は図書館を持ち歩くようなものだけど、図書館で最も大事な存在である司書がいなくていいんです。

学校には電子書籍の他に、電子黒板、電子教科書が導入されてきています。指導書に1年分のパワーポイントが収録されているので、果たしてこれでもいいのかと思つてですね。

酒井 司書とは、やっぱり人の存在です。あまたの中らたつた一冊の本を選べる司書や教師が必要とされるから、情報が過多になつたということは、それだけ人が必要になつたという風に考えれば、むしろ勇気づけられると思つています。それから、我々は常に脳を持ち歩いているので(笑)、自分の過去の経験を中に入れたまま日々歩き回っているんです。基本的に我々の脳は原始的な時代にデザインされたときと変わっていないので、どんな時代がきても不変です。また、人間の脳だけは置き換えが不能なので、小さいときに脳をいかに自分で創るか

大切なのは人の存在

宮下 私の友人の英語教師が、電子書籍は図書館を持ち歩くようなものだけど、図書館で最も大事な存在である司書がいなくていいんです。

学校には電子書籍の他に、電子黒板、電子教科書が導入されてきています。指導書に1年分のパワーポイントが収録されているので、果たしてこれでもいいのかと思つてですね。

酒井 司書とは、やっぱり人の存在です。あまたの中らたつた一冊の本を選べる司書や教師が必要とされるから、情報が過多になつたということは、それだけ人が必要になつたという風に考えれば、むしろ勇気づけられると思つています。それから、我々は常に脳を持ち歩いているので(笑)、自分の過去の経験を中に入れたまま日々歩き回っているんです。基本的に我々の脳は原始的な時代にデザインされたときと変わっていないので、どんな時代がきても不変です。また、人間の脳だけは置き換えが不能なので、小さいときに脳をいかに自分で創るか

実業之日本社 〒104-8233 東京都中央区京橋3-7-5 京橋スクエア ☎03-3535-4441(販売本部) http://www.j-n.co.jp ※お求めは書店で。ブックサービス(株) ☎0120-29-9625または(株)ブックライナー ☎0120-39-8899 でも購入できます。(定価税込) 6ケタの数字は書名コードです。書店にご注文の際は、頭に実業之日本社の出版社コード「978-4-408-」をお付けください。

TV・雑誌・ラジオ等多数のメディアでも紹介され、話題沸騰!!

脳を創る読書

なぜ「紙の本」が人にとって必要なのか

『言語脳科学』の第一人者が 真に「考える」ためのツールを検証する。

「紙の本」の風合い・質感・活字の存在感をこよなく愛する人も、「電子書籍」の簡便さに魅了されている人も必読の、脳と読書の意外な関係。

この本は、メディアの混在した時代に、一つの「整理」を示してくれるので、「脳がスッキリする」思いがした。 —「MORGEN4月号」より 東京明治学院高校校長 小暮修也氏

「脳の創造力を生かすためには」、「読書と会話を楽しむことが一番だ。」と唱えるあたりは誰もが肯かされるだろう。 —「MORGEN4月号」より 東京 瑞穂町立瑞穂第二中学校教諭(国語科) 熊倉峰広氏

なぜ「紙の本」が人にとって必要なのか

重版出来

四六装判 定価 1,290円(税別)

そして教師が手伝ってやるのか。そのために、紙の本はどういう意味で必要なのかということ、生徒一人ひとりが問い直すことができれば、と思つています。それは教師の役割なんですよ。

宮下 電子教科書の利点として、双方向の学習支援プログラムが作られて、生徒の進度や実力にあわせて学習が可能になるけれど、問題は、生徒がそのプログラムでどんなにドリルを解いてもわかつたことにはならない、教師の代わりに解いてもらえないと書かれてい

わかるためには時間をかけて自分の言葉に翻訳し、それでもわからない部分を補いながら、想像力を働かせて、友だちと議論して初めて、友だちかと思つたところで、またわからないところが出て来て、という繰り返して、多分終わりがありません。しかも、脳もついている非常に不思議なところは、そういうことを繰り返して、ある時一瞬にして、それがつなげてわかると思っている瞬間も、各教科のなかで子どもたちが自分得意なものがみつかることが大切ですね。その一つが



つかかりになり、他のことにもやる気がでるんじゃないかと思つています。

宮下 それぞれ、板書やノートのことも具体的に書いておくといいですね。生徒がノートをとることによって考える能力が育つということ、電子化が進むこれからの学校教育でも大切なことだと思つています。

酒井 人間の思考のプロセスというのは時間をかけてしかないので、ノートをとると手間はあつてもいいんですけど、しかも直すという作業が意識的にできるので、それが自分にとっての勉強になる。だけど、完璧に誤植のないものだけ見せられただけで、その必要がなくなるので、当然深い吟味もなくなってしまいます。そういう意識が、もしもしたらその中に誤りがあるのかもしれないというこすらわ

大切なのは人の存在

宮下 私の友人の英語教師が、電子書籍は図書館を持ち歩くようなものだけど、図書館で最も大事な存在である司書がいなくていいんです。

学校には電子書籍の他に、電子黒板、電子教科書が導入されてきています。指導書に1年分のパワーポイントが収録されているので、果たしてこれでもいいのかと思つてですね。

酒井 司書とは、やっぱり人の存在です。あまたの中らたつた一冊の本を選べる司書や教師が必要とされるから、情報が過多になつたということは、それだけ人が必要になつたという風に考えれば、むしろ勇気づけられると思つています。それから、我々は常に脳を持ち歩いているので(笑)、自分の過去の経験を中に入れたまま日々歩き回っているんです。基本的に我々の脳は原始的な時代にデザインされたときと変わっていないので、どんな時代がきても不変です。また、人間の脳だけは置き換えが不能なので、小さいときに脳をいかに自分で創るか

大切なのは人の存在

宮下 私の友人の英語教師が、電子書籍は図書館を持ち歩くようなものだけど、図書館で最も大事な存在である司書がいなくていいんです。

学校には電子書籍の他に、電子黒板、電子教科書が導入されてきています。指導書に1年分のパワーポイントが収録されているので、果たしてこれでもいいのかと思つてですね。

酒井 司書とは、やっぱり人の存在です。あまたの中らたつた一冊の本を選べる司書や教師が必要とされるから、情報が過多になつたということは、それだけ人が必要になつたという風に考えれば、むしろ勇気づけられると思つています。それから、我々は常に脳を持ち歩いているので(笑)、自分の過去の経験を中に入れたまま日々歩き回っているんです。基本的に我々の脳は原始的な時代にデザインされたときと変わっていないので、どんな時代がきても不変です。また、人間の脳だけは置き換えが不能なので、小さいときに脳をいかに自分で創るか

実業之日本社 〒104-8233 東京都中央区京橋3-7-5 京橋スクエア ☎03-3535-4441(販売本部) http://www.j-n.co.jp ※お求めは書店で。ブックサービス(株) ☎0120-29-9625または(株)ブックライナー ☎0120-39-8899 でも購入できます。(定価税込) 6ケタの数字は書名コードです。書店にご注文の際は、頭に実業之日本社の出版社コード「978-4-408-」をお付けください。